

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	九州栄養福祉大学リハビリテーション	階数	地上5F
建設地	福岡県北九州市小倉南区曾根北町	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	300 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2011年6月10日
敷地面積	4,507 m ²	作成者	株式会社 佐伯建設
建築面積	666 m ²	確認日	2011年6月10日
延床面積	2,288 m ²	確認者	株式会社 佐伯建設

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	93%
③上記+②以外のオンサイト手法	93%
④上記+オフサイト手法	93%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	別敷地にある同大学キャンパスとの意匠的な連続性に配慮しながら、大学の校舎として維持管理が容易な計画としている。	その他 特に無し。
Q1 室内環境	一般的な学校施設としての室内環境の確保に努めている。空調は空冷ヒートポンプパッケージを採用し、外部負荷はブラインドにより抑制している。また、仕上材料等にF☆☆☆☆を採用し室内環境向上に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 別キャンパスにある建物と外観デザインを統一することで、大学としての一体感を図る計画としている。また、内部空間についても同様に連続性に配慮している。
LR1 エネルギー	開口部を効率よく配置し、建築的に熱損失を抑える計画とした。また、空調エネルギーや照明エネルギーも効率的に利用できるように配慮した。	LR3 敷地外環境 マイクロバス専用の駐車場の設置や、駐輪場やゴミ置場を適切に配置することで、交通負荷の抑制に配慮した。
Q2 サービス性能	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす計画とした。また、階高に余裕を持たせ、居室の間仕切を極力乾式とする等、フレキシブル性の高い空間構成に配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	自動水栓や節水型便器の採用による省資源化に配慮した。また、有害物質を含まない材料の使用や、ハロン消火材を使用しない等、汚染物質の使用を極力回避する計画としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい